

中国語の要求表現

大 西 智 之

1. はじめに

まず、次の(1)(2)と(3)(4)を比べてみよう。

- (1) 雨が降りそうだなあ。
- (2) お母さん、ポチが不在しているよ。
- (3) 窓を開けて！
- (4) さあ、出かけよう。

(1)は単に「雨が降りそうだ」という推測を述べた文であるし、(2)は「ポチが不在している」という観察を聞き手（お母さん）に伝えただけである。それに対して、(3)は「窓を開ける」ことを、(4)は話し手と一緒に「出かける」ことを聞き手に要求しているのである。つまり、(1)(2)と(3)(4)は、前者が発話内容を述べ伝えることを目的としているのに対して、後者はその発話を通して聞き手に何らかの行動を起こすことを要求しているという点で大きく異なっている。次の(5)と(6)にも同様の違いがみられる。

- (5) どうしても私には貸してくれないのですか？
- (6) お願いですから、私に貸してくれませんか？

(5)(6)は同じく疑問文ではあるが、その発話を行った目的そのものに違いがみられる。(5)は「貸してくれない」ということの実情を聞き手に問いかけ、確かめているのに対して、(6)は「貸してくれる」よう聞き手に要求しているのである。

このように、文には、単に何かを述べ伝えるのではなく、また、事の実情を問いかけるのでもなく、発話を通して、聞き手に何らかの行動を起こすよ

う要求する文があるということがわかる。このような文を本稿では「要求表現」と呼ぶことにする。

要求表現は聞き手との関わり方によって大きく(a)~(d)の4つに分類できる¹⁾。

(a) 命令

まず、「命令」とは、話し手の聞き手に対する一方的な要求で、聞き手の意志の入り込む余地はない。次の(7)(8)のような表現をいう。

(7) こっちへ来い!

(8) 窓を閉めなさい!

(b) 依頼

「依頼」とは文字通り、話し手のために何かをしてくれるよう一段低い姿勢から聞き手に頼む表現であり、次の(9)(10)のようなものをいう。

(9) 辞書を取っていませんか?

(10) ちょっと手伝ってください。

(c) 勧め

「勧め」とは、聞き手に何らかの行動を起こすことを勧める表現であり、勧めるからには、それは話し手ではなく、聞き手にとって利のあることである。次の(11)(12)のような表現をいう。

(11) コーヒー飲みませんか?

(12) どうぞ先に御覧になってください。

(d) 誘いかけ

「誘いかけ」も聞き手に何らかの行動を起こすことを求める表現ではあるが、話し手と一緒に同じ行動を起こすことを要求するという点で(a)~(c)とは区別される。次の(13)(14)のような表現をいう。

(13) 明日東京へ行きますか?

(14) ちょっと休もうよ。

注1) 拙稿「否定疑問文——中国人学習者の誤用例から——」『外国語・外国文学研究』第11号、大阪外国語大学大学院修士会、1987年、13~26頁、並びに仁田義雄「日本語疑問表現の諸相」『言語学の視界——小泉保教授還暦記念論文集』大学書林、1987年、179~202頁参照。

以上、(a)~(d)についてそれぞれ2つずつ例を挙げてみたが、聞き手にこちらの要求を実行させようと思えば、他にも様々な手段あるいは言い回しが考えられる。例えば、塩を取ってほしいとき、相手の前にある塩を指させば、相手はこちらの要求を理解してくれるかもしれないし、また単に「塩!」と言ったり、「この料理塩が足りないね」などと言えば、聞き手は塩を手渡してくれるかもしれない。が、本稿では、このような非言語的手段による要求や間接的な要求表現は考察の対象外とし、主に直接的な要求表現、あるいは間接的ではあっても場面や前後の文脈に頼らずとも一般に要求表現と理解されるものについて考えることにする。

このように考察の対象を限定しても、まだいわゆる丁寧であるか否かによって様々な段階の表現が考えられる。例えば、先の塩を取ってもらう場合でも、次の(15)~(21)のような表現がすぐに思いつくであろう。

- (15) 塩を取ってくれ。
- (16) 塩を取ってください。
- (17) 塩を取ってくれる?
- (18) 塩を取ってくれないか?
- (19) 塩を取ってくれませんか?
- (20) 塩を取っていただけませんか?
- (21) 塩を取っていただけませんかでしょうか?

当然、他にもいくつかの異なった表現が考えられるが、それはさておきとして、日本語を母国語とする者なら、このような微妙にニュアンスの異なる表現を聞き手およびその場との関係によってごく自然に使い分けができるが、外国語として日本語を学ぶ者にはその使い分けが非常に難しいところである。

同じことが中国語についても言える。従来、中国語学では“祈使句”という項目をたて、いわゆる命令文を扱ってはいるが²⁾、その対象は本稿でいう

2) 文法の概説書以外に、特に命令文を取り上げて論じたものに①黄伯荣『漢語知
(次頁脚注へ続く)

直接的な要求表現に限られ、それを取り巻く、間接的ではあるが往々にして要求の働きをする表現がほとんど扱われていない³⁾、また、要求表現全般にわたる、丁寧さの度合いの観点による考察もなされていない⁴⁾。そこで本稿では、要求表現の範囲を広く扱い、どういった表現が丁寧であるかを考察すると同時に、そもそも中国語の要求表現をどう扱えばいいのかについても考えてみたい。

2. 要求表現の種々相

2.1 命令

2.1.1 命令文の成立条件

日本語では命令は、(7)(8)からわかる通り、動詞の命令形を用いたり、「～なさい」を加えるなど、命令専用型式を用いて表されることが多い。中国語はどうであろうか。

(2) 周朴園：衝兒，你把葉端到母親面前去。

(衝兒，葉をお母さんの前へ持って行きなさい)

周 衝：(反抗地) 爸！(〔反抗的に〕お父さん！)

周朴園：(怒視) 去！(〔睨み付けて〕行きなさい！) (雷，40)⁵⁾

識講話—陳述句，疑問句，祈使句，感嘆句』上海教育出版社，1984年，35～41・51～52頁，②劉月華「從《雷雨》《日出》《北京人》看漢語的祈使句」中国語文雜誌社編『中国語文叢書—語法研究和探索(三)』北京大学出版社，1985年，100～129頁，③ Anne Yue Hashimoto “*The Imperative in Chinese*”『言語研究』第56号，日本言語学会，1970年，35～62頁などがある。

3) 黄伯荣，前掲書，51～52頁，呂叔湘『漢語語法叢書—中国文法要略』商務印書館，1982年，309頁等で簡単に触れられているだけである。

4) 劉月華，前掲論文，106～120頁，並びに木村英樹「依頼表現の日中対照」『日本語学』1987年10月号，明治書院，58～66頁でこの点についての考察がなされているが，一部の要求表現についてのみである。

5) 例文の出典および略称については本稿末の「例文引用作品」参照。なお，出典を明記していない例文は作例であるが，すべてインフォームントチェックを受けている。また，印刷の便のため簡体字は一部繁体字並びに現在日本で使用されている漢字に改めた。

(23) A：你去嗎？（君行く？）

B：去。（行くよ）

(22)と(23)の上点を付した“去”は、表層構造上は全く同型であるにも関わらず、(22)では“周衝”に対する命令と理解され、(23)ではAの問いに対する答えと理解される。両者が発せられる際、多少のイントネーションの違いはあろうが、それ以上にそれぞれの文脈での両者の働きを異ならしめているものは、(22)の動作主が聞き手であるのに対して、(23)のそれが話し手自身だという点である。中国語では動作主の明示は文成立において必須の条件ではないため、このような現象が生じるのである。次の(24)の“周衝”の発話もここでは“周朴園”の問いに対する答えとして働いているが、この一文だけ取り出し、別の文脈中に入れれば、充分「二階へお母さんの様子を見に行きなさい」という意味の命令文として働きうるのである。

(24) 周朴園：衝兒，上哪兒去？（衝兒，どこへ行くんだね？）

周 衝：到樓上去看看媽。（二階へお母さんの様子を見に行きます）

（雷，41）

命令に限らず、要求表現全般にわたって、要求する行為は当然のことながら未然であるはずで、先の(22)もその例外ではない。ならば、未然の行為の動作主が聞き手でありさえすれば、いつも命令として働くかというところではない。

(25) A：誰去？（誰が行く？）

B：我去。（僕が行く）

A：你去？（君が行くって？）

(26) 你去，他也去。（君が行ったら、彼も行きます）

(25)(26)の“你去”は命令とはならない。(22)との違いは言い切りの形になっていないという点である。(26)の場合、複文の従属節として主節につながっていかざるを得ないのに対して、次の(27)では“你去”が主節としておさまっているため、言い切りの形となり、命令表現として働くのである。

(27) 他去，你也去。（彼が行ったら、君も行きなさい）

以上の観察から、中国語の場合、未然の行為の動作主が聞き手であり、言い切りの形となっている場合、それは命令文として機能すると言えるようである。

2.1.2 命令文の本質

“我去。”“他去。”がただ単に「私が行く」「彼が行く」という事実を述べ伝える文であるのに対して、動作主を聞き手に変えただけの“你去。”が命令文として働くということは、動詞の命令形など命令表現専用型式をもつ日本語からすれば、一見特異に見えるが、実は日本語にもこれに似た表現がある。次の(28)の動詞の終止形による命令表現がそれである。

(28) 神様はぼくの左腕の皮膚を、親指と人さし指できゅっとつまみあげて、
「よく見る」と叫んだ⁶⁾。

尾上⁷⁾は、この終止形による命令表現と命令形によるそれとの違いを「そこにすわる。」と「そこにすわれ。」とによって次のように説明している。

「ソコニスワル」という形は「そこにすわる」という一つの事態をあくまでただその事態として表示するだけのものである。何かを相手に求め得るような、あるいは求めざるを得ないようなあり方の言語場において、実現を求めるその事態内容をただそのまま「そこにすわる」とことばにするとき、聞き手の状況認識能力によって、それは聞き手自身に向けられた要求の内容、あるいは聞き手がそこで為すべき行為の指定内容となる。(23頁)

比喩的に言えば、「ソコニスワレ」という単語列は、命令という言葉意図に沿って十分に加工を施した道具である。「ソコニスワル」という単語列は、ほとんど材料そのままの板きれのような道具であるが、素材そのものに近い形であるからこそ、かえって様々の用途に使えるのであろう。

6) 阪田雪子「依頼・要求・命令・禁止の表現」『国文法講座6 時代と文法——現代語』明治書院、1987年、312頁からの引用。上点は筆者。

7) 尾上圭介「そこにすわる！」『言語』1979年5月号、大修館書店、20～24頁。

(24頁)

日本語の終止形による命令表現は、その一方に命令形という命令表現専用型式による表現が存在するという点で、中国語の命令表現とはそのあり方が根本的に異なるのではあろうが、終止形が命令表現にもなりうるというそのあり方自体は、中国語の命令表現のあり方にも通じると考えてよかろう。つまり、(22)の“(你)去”も(25)(26)の“你去”も「あなたが行く」という一つの事態をそのまま述べたにすぎない。それが(25)では、文脈並びに文末上昇イントネーションによってたまたま問い返し疑問文としての働きを担わされ、(26)では後に“他也去”が続くことによってたまたま複文の従属節としての働きを担わされたのに対して、(22)では言い切りの形にすることによって、“你去”という事態を実行するよう聞き手に求める表現として理解されるのである。

2.2 依頼

前節でみた通り、要求内容をそのまま聞き手にぶつければ、往々にして話し手から聞き手への一方向的な要求、つまり命令表現となった⁸⁾。そうではなく、何事かを依頼する場合、一方向的に要求しているのではなく、一段低い姿勢から聞き手に頼んでいるのだということを示す必要がある。当然イントネーションによってもそのことを表せるであろうが、シンタックス上ではどういう手段がとられるのであろうか。

2.2.1 尊敬

まず、最も普通に考えられる手段として、相手を自分より一段高い位置へ持ち上げればよい。

(29) 師傅，您把火柴遞給我。(親方，マッチを取ってください)

(30) 張醫生，把那手絹拿給我。(張先生，そのハンカチを取ってください)

(広，278)

(29)(30)はともに、(29)“把火柴遞給我”(30)“把那手絹拿給我”と要求内容をスト

8) 命令表現以外に勧め表現となることもあるが、それについては後述。

レートに述べているだけであるが、これらは命令ではなく、依頼表現として働いている。(29)の場合は、“你”の尊敬語“您”を用いて聞き手を一段高く持ち上げているのであるが、それが結果としては聞き手より一段低い姿勢から要求することになり、依頼表現として成立しているのである。では、(30)はどう考えるべきか。実は、“医生”という呼びかけ語自体が“您”に相当する働きをしているのである。日本語では、訳文にあるように、「先生」という尊敬語で呼びかけた場合は後続文もそれに呼応して、「～ください」というような丁寧な表現にする必要があるが、中国語の場合は、呼びかけ語のもつ尊敬の力がある程度文末にまで及ぶため、依頼表現として成立するのである。そこでもう一度(29)をみても、実は“師傅”もやはり尊敬の呼びかけ語なのであり、(29)は二重に聞き手を持ち上げていることになる。

2.2.2 謙 讓

先の「尊敬」とは逆に、話し手自らが聞き手より一段低い位置に降りて要求する場合、それが正しく「頼む」ということであり、依頼表現として成立する。

- (31) 我希望你不要走。(行かないでほしいの) (雷, 56)
 (32) 我請你略微坐一坐。(お願いだからしばらくここに居て!) (雷, 53)
 (33) 我求你陪伴我坐一会儿。(お願いだからもうしばらくここに居て、私につきあって!) (劇'87. 3. 72)

(31)~(33)はいずれも聞き手への要求内容をそのまま述べるのではなく、話し手の希望として述べる形をとっているが、“希望”“請”等の対象が聞き手であることから、結果的には聞き手への要求表現として働くことになる。しかも動詞がいずれも「頼む」の意味をもつことから、命令ではなく、依頼表現として機能するのである⁹⁾。そして、この3つの表現間の丁寧度の違いは、動詞の語彙的意味の違いによるものであり、敢えていうなら、(31)が日本語の

9) 動詞が“要”の場合、往々にして命令表現となる。“我要你出去。”(出て行ってもらいたい)

「～してほしい」に相当し、(32)(33)が「～していただきたい」に相当するのであろう。

さて、このうち(32)の延長線上にあると思われる表現に(34)(35)のような“請”がある。

(34) 請你把窓戶打開。(窓を開けてください)

(35) 請到這邊來。(こちらへ来てください)

この“請”は動詞というよりは、もはや「敬辞」というべきかもしれないが、それにしても「乞う、頼む」という動詞本来の意味を色濃く残しているため、やはり謙譲の力を持ち、依頼表現として成立するのである。

2.2.3 依頼内容の軽減化

何事かを人に頼むからには、頼まれる側の身になって負担を軽くする必要がある。これを「依頼内容の軽減化」¹⁰⁾と呼ぶことにする。次の(36)“一下”(37)“一趟”(38)動詞の重ね型型式などがその働きをしている¹¹⁾。

(36) 請你轉告他一下。(彼にちょっと伝えてください)

(37) 你給我跑一趟吧。(ひとつ走りしてちょうだいよ)

(38) 我的帽子不見了，你給我找找。(帽子がなくなったの。捜してみてちょうだい)

これらはそれぞれ訳文からわかる通り、「相手に依頼する動作を短く少なめな形——言わば「軽減化」した形——で提示することで、こちらの控えめな要求の姿勢を示し、それによって、より円滑な依頼行為の遂行を促す働きを担っている」¹²⁾ であり、これらを欠いた場合、依頼表現としては成立しがたいのである。

2.2.4 “請”

10) 木村，前掲論文，61頁からの用語。

11) (36)～(38)とも，同上論文，62頁からの引用。

12) 同上論文，61頁。

以上、ある要求表現を依頼表現として成立させるための手段として3つ挙げたが、いかなる場合もこの3つのうちのどれかを使えば事足りるかといえはそうはいかない。例えば、相手が尊敬する恩師である場合、いくら(34)～(38)の“你”を“您”に変えたところで、また、(29)(30)の呼びかけ語を“老師”“先生”等に変えたところで、適当な依頼表現とは言えない。なぜなら、この3つの手段は、「頼む」というこちらの低姿勢を示してはいるが、それでもやはり要求内容をストレートに述べているため、厚かましい依頼と受けとられるのである。

ここで、もう一度“請”について考えてみよう。“請”はしばしば、日本語の「～してください」に対応し、丁寧な要求表現をつくると言われるが、実際は上でみた通り、厚かましい依頼であり、決して丁寧とは言えない。“請”は本来、聞き手より一段どころか、二段も三段も低い姿勢から「乞い、頼む」動詞であるということから、聞き手との間に一定の距離を保つ力をもつことになる。そのため、(39)～(41)のように「公」の場・関係、あるいはあまり親しくない者の間において用いられることが多いのである¹³⁾。

(39) 現在會議就要開始了，請大家安靜下來。(ただいまから會議を始めます。みなさん、静かにしてください)

(40) 王秘書：部長，請立即回辦公室去。(王秘書：部長，すぐに事務室へお帰りください) (劇'87. 6. 13)

(41) 司機：醫院到了，請下車吧。(運転手：病院に着きました。車からお降りください) (広，268)

そしてこのような場・関係においては、年齢や地位の上の者から下の者に対してもお互いに一定の距離を保つ必要があるため、やはり“請”が用いられることになる。次の(42)は部長から部下に対する依頼である。

(42) 請把“文革”中担任過科研組長的人名報給我。(「文革」中に科研班長を務めたことのある者の名前を私に報告してください)

13) 要求表現における「聞き手」や「場」との関係については、阪田，前掲論文，306～310頁が詳しい。

(劇'87. 6. 15)

そのため、逆に聞き手との間に一定の距離を保つ必要のない場（例えば第三者の介在しない場、家庭内等）や関係（例えば親子、夫婦、親友等）において“請”を用いた場合、意図的に相手との距離を保つことになり、よそよそしさを表すことになる。

- (43) 別打馬虎眼！請你把兜裏的東西掏出来，聽見沒有？（ごまかさないで！ポケットの中の物を出してください。聞こえないの？）

(劇'87. 3. 61)

- (44) 周蕪漪：你不要再騙我，我問你，你說要到哪兒去？（もうこれ以上私を騙さないで！一体どこへ行くつもりなの？）

周 萍：用不着你問。請你自己放尊重一點。（あなたには関係ありません。もっと自分自身、尊厳をもってください）（雷，90）

(43)は夫婦喧嘩中の妻から夫への要求であり、(44)はすっかり関係の悪くなった息子から継母への発話である。

2.2.5 聞き手の意志の尊重

上の3つの手段は、いずれも厚かましい要求表現を生み出す結果となり、依頼表現としては十分に丁寧とは言えなかった。ならば、より丁寧な表現とするにはどうすればいいかという、厚かましくない、つまり控えめな態度を示せばいいわけである。

2.2.5.1 “好嗎？”系

その手段としてまず、こちらの要求を受け入れてくれるか否かを問いかけることによって、相手の意志を尊重すればいいのである。よく用いられるものに文末助詞“吧”がある。

- (45) 我只有你，萍，你明天帶我去吧。（私にはあなたしかいないの。萍、あした私を連れてって！）（雷，148）

- (46) 魯貴，叫他來吧，我在這兒，不要緊的。（魯貴，彼を呼んで来て！私

がここに居るから大丈夫)

(雷, 142)

(45)(46)はともに“吧”を加えることによって、一方的な強い命令の語気が和らぎ、依頼表現として成立しているのである。ただ、そうかといって、“吧”は別に依頼表現を生み出す専用型式というわけではなく、(47)~(49)など様々な場面で用いられる文末助詞である。

(47) 他是日本人吧。(あの人、日本人だろう?)

(48) 好吧, 就這麼辦。(いいでしょう。そうしましょう)

(49) 那我去吧。(それじゃ、私が行きましょう)

これらの各用法に共通する“吧”の意味、つまり意義素は、「断定を避ける」ということであろう。例えば(47)は、“他是日本人”と言い切ってしまうほどの自信がないため、“吧”によって断定を避け、その分、聞き手にも判断を委ねようとしているのである。そしてこの手段が要求表現において用いられた場合、聞き手の意志を尊重することにつながり、依頼表現として成立するのである。

ただ、“吧”の場合は聞き手の意志を尊重する力が弱いため、それほど丁寧な依頼とはならない。もっと控えめで丁寧な表現としたければ、最終的な判断を聞き手に委ねてしまえばいいわけで、そのためには日本語でもそうであるが、疑問文型式を用いればよい。

(50) 我想去大青山牧場, 你給我安排一下, 好嗎? (大青山牧場へ行きたいんだが、ちょっと手配してくれないかね?) (広, 312)

(51) 萍, 你帶我去好不好? (萍, 私を連れてってくれない?) (雷, 48)

(52) 這次你來寫怎麼樣? (今回は君が書いてくれないか?)

(50)~(52)はいずれも(50)“你給我安排一下”(51)“你帶我去”(52)“你來寫”で言い切ってしまうと一方的な要求となり、丁寧さに欠けるが、それぞれ(50)“好嗎?(いいですか?)”(51)“好不好?(いいですか?)”(52)“怎麼樣?(どうですか?)”を加え聞き手の意志を問いかけることによって、控えめな依頼表現として成立しているのである。このことは次の(53)からもよくわかる。

(53) 周蕪漪: 四鳳, 你給二少爺拿一瓶汽水。(四鳳, 若旦那様にジュース

を1本持って来てあげなさい)

(魯四鳳拿汽水上)〔魯四鳳がジュースを持ってやって来る〕

魯四鳳：二少爺。(若旦那様)

周 衝：謝謝你。(ありがとう)

(魯四鳳紅臉，倒汽水)〔魯四鳳が顔を赤らめ，ジュースを注ぐ〕

周 衝：你給太太再拿一個杯子來，好嗎？(奥様にもグラスを1つ持って来てくれないか?)

(魯四鳳下)〔魯四鳳がさがる〕

周蕪漪：衝兒，你們爲什麼這樣客氣？(衝兒，あなたたちなんでそんなに他人行儀なの?) (雷，28)

“周蕪漪”は、息子“周衝”が、同じ年頃であるとはいえ使用人の“魯四鳳”に対して、“好嗎?”を用いて控えめに依頼していることを不思議に感じたのである。

ただ、この3種の疑問文形式も依頼表現を生み出す専用形式ではないということ断わっておく必要がある。そのことは次の(54)~(56)によってもわかる。

(54) 是的，還有很多繼昆、繼月合演的劇照，我來拿給你們看，好嗎？(そうですね。繼昆と繼月が共演している舞台写真なら他にもまだまだたくさんあります。持って来て見せてあげましょうか?) (広，92)

(55) 我給你看看東西好不好？(あなたにある物を見せてあげましょうか?) (広，283)

(56) 佩佩，你看我這身奶油色春裝，配上這雙紅色高跟兒鞋怎麼樣？(佩佩，ねえ，私のこのクリーム色の春ものにこの赤いハイヒールの組み合わせ，どうかしら?) (広，265)

(50)~(53)の場合は、たまたま“好嗎?”等に先行する発話が要求表現であったため、結果として控えめな依頼表現となったにすぎないのである。

“好嗎?”系に属する表現として他に“成麼?”“行不行?”等がある。例だけ挙げておく。

(57) 您別吞吞吐吐地成麼？(そんなまどろっこしい言い方よしてくれない

?) (雷, 19)

(58) 不要再說了! 成不成? (それ以上言わないでくれない?) (老, 281)

(59) 孩子餓急了, 你快点行不行? (子供が腹ペコなのよ。早くしてくれない?) (劇'87. 6. 85)

2.2.5.2 “能不能?”系

控えめな態度を示すもう一つ的手段として、こちらの要求を受け入れるだけの能力、条件が備わっているか否かを問いかけることによって、相手の意志を尊重すればいいのである。その具体的な手段としてまず“能～嗎?”が挙げられる。

(60) 李導演: 等等! 校長同志, 您剛才說趙毛妹打電話調消防車, 這是怎麼回事, 能給我們講講嗎? (ちょっと待った。校長先生, 先程趙毛妹が電話をかけて消防車を呼んだとおっしゃいましたが、一体どういうことですか。私たちに話していただけますか?)
 錢校長: 可以。爲了使你們了解她——孫老師, 你給他們說一說。(いいですよ。あなたがたに彼女のことをわかってもらうために……孫先生, 話してあげなさい) (劇'87. 3. 31)

(61) 吳 楓: 同志, 我排了半天啦, 能加個号嗎? (あの, ずい分長いこと並んでたんだが, 一人加えてもらえないだろうか?)

掛号員: 不行, 下一个……(ダメです。次の人……) (広, 311)

(60) “給我們講講” (61) “加個号” ということをストレートに要求するよりは、“能～嗎?” によってそれらのことが可能か否かを問いかけ、聞き手の意志を尊重することによって、かなり控えめな依頼表現となる。ただ、たとえ動作主が二人称であっても、“(你) 能～嗎?” は別に依頼表現を生み出す専用型式であるわけではない。次の(62)はただ単に“来”できるか否かを問うているのであって、“来”してくれるよう依頼しているわけではない。

(62) A: 明天開個聯歡會。你能來嗎? (明日交歡會を開くけど、君来れる?)

B：能，一定来。（ええ，必ず行きます）

この両者の違いは，“能～嗎？”に包まれた内容にどれだけ「話し手のために」という意味合いが込められているかによるのであろう。そしてその違いは，シンタックス上では答えの部分に現れる。(62)のほうは，Aが“能”か“不能”かを問うているのであるから，Bのほうも“能”あるいは“不能”で答えればいいのに対して，(60)(61)の場合は依頼表現であるため，聞き手のほうもそれに見合った答え方（(60)“可以”（61）“不行”）をする必要があり，“能”“不能”で答えるのは不自然なのである。

この“能～嗎？”とほぼ等価の意味を表す表現に“能不能～？”がある。

(63) 是的，還說什麼大風大浪才够刺激，可万一……噯呀呀，李小姐，您能不能找個救生艇？（そうです。それに大風大浪のほうが刺激があっ
てい
いなんて言っていました。でも万一……ああ，李さん，救命ボートを用
意してもらえませんか？）（劇'88. 5. 59）

(64) 秦大夫，你能不能帶我走呢？（秦先生，私を連れて行ってくれませ
んか？）（老，295）

“能不能～？”が控えめな依頼表現として成立する事情は，先の“能～嗎？”と同じであるため，繰り返して述べることはしない。

2.2.5.3 控えめ度の比較

ここで各表現間の丁寧さの違いを比べておくことは，実用の面からみても大いに必要なことであろう。が，丁寧であるか否かということは，その発話がどういうイントネーションでなされたか，前後の文脈はどうであるか等によって大きく影響を受けるため，ただ単に該当する一文のみを取り出して比較してみたところでどれほどの意味があるのか疑わしい。しかし，それでもおおよその目安となるよう一般的な傾向だけでも考えておくことにする。

まず，“好嗎？”系の場合，“吧”がそれほど控えめな表現をつくること
ができないということは先にも述べた。他の3つの疑問文型式は，“怎麼樣？”
→“好不好？”→“好嗎？”の順に控えめの度合いが増すようである。

ただ、それがなぜかは筆者にはまだわかっていない。次に“能不能？”系のほうは、“能～嗎？”よりは“能不能～？”のほうが控えめな表現となるようであるが、これについてもなぜかはわからない。

ここで当然、“好嗎？”系の各表現と“能不能”系の各表現とをお互いに比較することが必要となるのだが、先にも述べた通り、それには他の様々な要因がからまって繁雑を極めるため、筆者の力の及ぶところではない。そこで本稿では、各系の最も控えめだと思われる表現“好嗎？”と“能不能～？”とを比べるだけに止めることにする。結論から先に言うなら、一般に“能不能～？”のほうが、“好嗎？”より一層控えめな依頼表現となるようである。先の(53)と(63)を例に考えることにする。“好嗎？”による依頼表現は、まずストレートに自分の要求(“你給太太再拿一個杯子來”)を述べたものの、それでは一方的な要求となりあまりにも厚かましいため、その厚かましさを少しでも和らげるために後から“好嗎？”を付け足したものである。そのため多少なりとも厚かましさが残ってしまう。それに対して、“能不能～？”による依頼表現のほうは、要求内容(“找個救生艇”)を述べる前にまず“能不能”によってこちらの控えめな態度を聞き手に示すため、厚かましさを感じさせず、一層控えめな依頼表現と受け取られるのであろう。

“好嗎？”系の疑問文型式の表現が後から付け足されたものであるということ、次の(65)(66)からもよくわかる。

(65) 你呀，……就做個無名英雄吧！你說好嗎？（無名の英雄になって！ねえ、そうしてくれない？）（広，287）

(66) 那你走吧，好不好？（それじゃ帰って！お願い！）（雷，121）

(65)(66)ともに、“吧”によって多少なりとも控えめな態度を示した上で、文を一度終止させているにも関わらず、控えめさを更に加えるために“好嗎？”“好不好？”を付け足したのである。

2.3 勧め

相手に何事かを勧めるということは、つまり、勧める何事かが相手にとっ

て利のあることに違いない。そのため、人に何かを頼むときほど控えめな態度をとる必要はなく、ストレートに勧めればいいのである。

(67) 来，喝茶，喝茶，方護士，你吃糖。（さあ，お茶どうぞ。方さん，飴
いかがですか？） (広，92)

(67)は看護婦（2人）に対する入院中の息子の父親の発話である。“喝茶”“吃糖”と要求内容をそのままストレートに述べているだけであるが，決して命令しているわけではなく，親しみをもって勧めているのである。ただ，相手の年齢や地位が上であるとか，あまり親しくないような場合は，やはりそれなりの手段を用いる必要がある。

(68) 魯貴：二少爺，您先坐下。（若旦那様，まずは座ってください）
(雷，105)

(69) 俞剛，請喝茶！（俞剛さん，お茶をどうぞ） (広，288)

(70) 周総理，請到会客室吧！（周総理，来賓室へどうぞ） (広，337)

(68)は使用人“魯貴”が2番目の若旦那“二少爺”に対して座るよう勧める場面であるが，2人の社会的関係を考えて場合，“先坐下”とストレートに勧めるだけではやはり失礼であり，“您”および尊敬の呼びかけ語“二少爺”によって聞き手を一段高い位置へ持ち上げる必要がある。(69)は姉の婚約者“俞剛”に対する発話であるが，自分より年上でありしかもあまり親しくないため，一定の距離を保つ“請”によって比較的丁寧に勧めているのであろう。また，(70)は“総理”“請”によって聞き手への敬意を表しているのであるが，言い切ってしまうが押しつけがましさが感じられるのであろう。文末に“吧”を加えることによって，相手の意志を尊重する姿勢を示しているのである。

以上の観察から言えることは，勧め表現においては，丁寧に勧めようとする場合，依頼表現に用いられた手段のうち，“您”，尊敬の呼びかけ語，“請”，“吧”が用いられるということ，もっと正確に言うなら，これらの手段を用いれば充分なのであり，勧め表現の本質から考えて，これ以上に控えめな態度をとる必要はないということである。

2.4 誘いかけ

誘いかけとは、聞き手に対して話し手と同一行動をとるよう頼むことであり、その意味で依頼表現の一種とも言える。そして依頼であるからには、やはりそれなりの控えめな態度が求められることになる。

(71) 好吧，今天我們在這兒吃飯。(よし，今日はここで食事としよう)

(72) 走，咱們走！（出かけるぞ！）

(71)(72)は動作主が“我們”“咱們”であることから、聞き手と話し手が同一行動をとることにまちがいないのだが、これでは誘いかけとはならない。なぜなら、話し手は“在這兒吃飯”“走”という自分の意見を提案し、それを聞き手に押しつけたにすぎず、その提案に対する聞き手の意見の入り込む余地が全くないからである。これらは、聞き手に対しては次のように命令しているに等しいのである。

(71) 今天我在這兒吃飯。你也在這兒吃飯！（今日俺はここで食事をする。

お前もここで食事をしろ）

(72) 我走。你們也一块兒走！（俺は出かけるぞ。お前たちも一緒に出かけるんだ）

そこで、誘いかけるからにはそれなりに聞き手の意志を尊重する必要がある、その手段として依頼表現にも用いられた“好嗎？”系がしばしば用いられる。

(73) 我們早点結婚吧！（早いうちに結婚しようよ）（広，289）

(74) 有事咱們以後再談好嗎？（用があるなら後で話しませんか？）

（劇'87. 5. 22）

(75) 我們去吃個便飯，好不好？（ちょっと食事に行きませんか？）

（老，241）

(76) 林冰，明天咱們去洗海澡怎麼樣？（林冰，明日海へ風呂に入りに行かないか？）

（劇'87. 5. 17）

3. 否定疑問文型式による要求

日本語では、否定疑問文型式が要求表現として大いに活躍している。

- (77) 早く家へ帰らないか！
- (78) この問題教えてくださいませんか？
- (79) 君も試してみないか？
- (80) 明日映画を見に行きませんか？

(77)～(80)はそれぞれ、命令、依頼、勧め、誘いかけを表している。本節では、中国語の場合はどうであるかを、随時日本語と対照しつつ考えてみたい。

(a) 命令

まず、次の(81)(82)をみていただきたい。

- (81) 人家好容易把你背到终点，还不快谢谢！（ひとがやっとのことでゴールまで負ぶってくれたんだから、早くお礼を言わないか！）（広，4）
- (82) 姑 姑：写信太慢。往电影厂打长途电话，电话费我们出。（手紙では遅すぎます。映画製作所へ長距離電話をかけましょう。電話代は私たちがもちます）

孫老師：（正中下懷）对。打电话！（〔自分が考えていた通りだったので〕）そう。電話をかけましょう）

錢校長：那你还不快去！（それなら早く行かないかね！）

（劇'87. 3. 45）

(81)(82)はともに否定疑問文型式を用いているが、その意味するところはほぼ(83)に等しい。

- (83) 快谢谢！（早くお礼を言いなさい）
- (84) 快去！（早く行きなさい）

ならば、“還不”の加えられた意味は何であろうか。

日本語では、先の(77)や次の(85)(86)のように「～ないか」によって命令を表す

ことができる。

(85) 早く風呂に入らないか。

(86) 早く寝ないか。

これらの意味するところは、ほぼ(87)(88)に等しい。

(87) 早く風呂に入りなさい。

(88) 早く寝なさい。

ただ、(87)(88)とほぼ等価の意味は次の(89)(90)によっても表すことができる。

(89) まだ風呂に入らないの(か)？

(90) まだ寝ないの(か)？

ならば、(85)(86)と(89)(90)とはどう異なるのかが問題となる。まず、(89)(90)は、(89)「まだ風呂に入らない」(90)「まだ寝ない」ということの真偽を問いかけ、確かめることを本来の働きとする表現であるが、たまたま前後の文脈によって反語表現と理解され、(87)(88)とほぼ等価の意味を表すことになるのである。それに対して(85)(86)は、本来的に命令表現であり、「～ないか」は命令表現を生み出す専用型式とも言えるものである。そのことは、(89)(90)が三人称を動作主とすることができるのに対して、(85)(86)はそれができないという点からもわかる。

(89)′ 彼はまだ風呂に入らないの(か)？

(90)′ 彼はまだ寝ないの(か)？

(85)′ *彼は早く風呂に入らないか。

(86)′ *彼は早く寝ないか。

ここで再び中国語について考えてみることにする。中国語には、先の(81)(82)に似た表現に次の(91)(92)のような“快”が加えられていない“還不～”という表現がある。

(91) (見周萍驚立不動) 胡涂東西, 你還不跑! ([周萍が驚きのあまりつっ立ったままているのを見て] このバカ者が! まだ逃げないの?)

(雷, 125)

(92) 你叫什麼? 你還不上樓去睡? (何を大声出しているんだ? まだ二階へ上がって寝ないのか?)

(雷, 158)

これは日本語の(89)(90)と同じく、本来(91)“你還不跑”(92)“你還不上樓去睡”と
いうことの真偽を確かめる表現であるが、たまたま前後の文脈によって反語
表現と理解され、その結果次の(93)(94)とほぼ等価の意味を表すことになったの
である。

(93) 你快跑！(早く逃げなさい)

(94) 你快上樓去睡！(早く二階へ上がって寝なさい)

一方、(81)(82)の“還不快～”型式のほうも“還不～”型式と同じく、三人称の
動作主をとりうる((81)/(82)/(91)/(92))という点から考えて、やはり本来的な命令
表現ではなく、反語的に命令表現と理解されると考えたほうがいいのかもし
れない。

(81) 他還不快謝謝？

(82) 他還不快去？

(91) 他還不跑？

(92) 他還不上樓去睡？

ただ、“還不～”型式のほうは、次の(95)のようにたとえ動作主が聞き手であ
っても反語表現とならず、純粹に問いかける表現でありうるのに対して、
“還不快～”型式のほうは、動作主が聞き手である場合、たとえ反語的にで
はあっても一義的に命令表現として理解される。

(95) 孟護士長，下班了，您還不走？我走啦，你也走吧。(孟婦長，時間で
すよ。まだ帰らないんですか？私はこれで失礼します。婦長も帰りませ
んか？) (広，81)

また、当然のことではあるが、“還不”は(96)(97)のように形容詞や非動作動詞
を従えることができるのに対して、“還不快”のほうは、副詞“快”の意味
から考えて、命令表現をつくりうる動作動詞しか従えることができない。

(96) 你還不高興？(まだ御機嫌斜めなの？)

(97) 你還不知道？(まだ知らないの？)

以上の観察から、動作主が二人称の“還不快～”型式、つまり“你還不快
～”は、日本語の「～ないか」と同じく、命令表現を生み出す専用型式と考

えることができる。だからこそ、ともに形式上は否定疑問文であるにも関わらず、「～ないか」は文末下降調で発せられるし¹⁴⁾、“你還不快～”は往々にして文末に“?”ではなく“!”が用いられるのである。

本節の最後にもう一点補足しておく必要がある。否定疑問文型式による命令表現は、「～ないか」「你還不快～」ともに、当然ある行動を起こしている、あるいはある状態になっているべきなのに、まだそうではないという前提の下に発せられる表現だということである¹⁵⁾。具体的に言うなら、例えば(85)は、当然「すでに風呂に入っている」べきなのにまだ入っていないために発せられたのであるし、(81)は当然「謝謝」すべきなのにいつまで経っても「謝謝」しないため促しているのである。このことは、“你還不快～”の場合は“還”と“快”から読みとれるし、「～ないか」のほうは副詞「早く」とか、次の(98)のような表現からわかる。

(98) 待てと言ったら、待たないか。

(b) 依頼

次に依頼であるが、間接的に、つまり反語表現によって依頼することは、命令の“還不～”型式の場合と同じく可能である。

(99) 呶、秦大夫、你認識兩位司令長官，不能給父親想想主意嗎？（ああ、秦先生、司令長官お二人とお知り合いなのに、父のために何とか方法を考えてはくださらないのですか？）（老、295）

(100) 小点嗓門兒不行？（ちょっと声を小さくすることできないの？）

（劇’87. 5. 7）

しかし、否定疑問文による依頼表現専用型式はないようである。

(c) 勧め

次の(101)(102)は反語としてではなく、直接的な勧め表現と理解したほうがいい

14) 仁田、前掲論文、198頁参照。

15) 拙稿、前掲論文、15頁参照。

ようである。

(00) 呂秀花：(走過來) 嚴大哥，您好啊？（〔こちらへやって来て〕 嚴さん、元気ですか？）

嚴大爺：(衝何貴) 找来啦，(对呂秀花) 飯得啦？（〔何貴に向かって〕 捜しに来たよ。〔呂秀花に対して〕 御飯できたかね？）

呂秀花：您不家去喝兩盅？今天老頭子過生日。(家へ来て一杯やりませんか？今日はじいさんの誕生日なんですよ) (蘇, 4)

(02) (方磊達端着菜和酒走出)〔方磊達が料理と酒を運んで出てくる〕

方磊達：走了？這個商人？(帰ったか？あの商売人)

艾麗麗：您干嗎瞧不起商人？(なんでそんなに商売人をバカにするの？)

方磊達：我爲什麼一定要瞧得起商人？(發覺自己語氣太硬，遂軟了下来) 麗麗，你不吃点兒？(なんで商売人を尊敬する必要があるんだ？〔言い方があまりにもきついのに気づき、穏やかに〕 麗麗，お前も食べないか？) (劇'87. 5. 22)

仮りにこれらが反語による勧め表現であるなら、日本語になおした場合、(00)'(02)'のようなはずである。

(00)' 家へ来て一杯やらないのですか？

→家へ来て一杯やりなさいよ。

(02)' 食べないのか？

→食べろよ。

しかし、ここでは前後の文脈から考えて、「やらない」「食べない」という前提がないため、それを確かめる表現を用いるのは不自然である。このことから、(00)(02)は否定疑問文型式ながら直接的な勧め表現であると理解するほうが自然である。ただ、中国語では、日本語の「～ません(か)？／～ない(か)？」と「～ないのですか？／ない(か)？」の違いがシンタックス上に現れないため、その判断が難しく、次の(03)も直接的な勧め表現であるのか、反語によるものであるのか判断がつきにくい。

- (03) 珊珊，今天是你生日，又是“五一”労働節，不歇歇，玩玩？（珊珊，今日はお前の誕生日だし，メーデーでもあるのに一休みして遊ばないのか？）
(劇'87. 6. 93)

(d) 誘いかけ

次の(04)(05)も直接的な誘いかけ表現と理解したほうが自然である。

- (04) 聽說美術館举行一個展覽會。們不去看看？（美術館で展覽會が開かれているそうだよ。見に行かない？）

- (05) 他們說那個飯館兒的燒賣挺好吃。們不去吃吃？（あの食堂のシューマイとってもおいしって彼らが言ってたよ。食べに行ってみない？）

これらを反語的でなく直接的と理解する事情は，勧め表現の場合と同じであるため，繰り返す述べることはしない。

4. 要求のモダリティ

発話または発話行為としての文を「命題」(proposition)と「モダリティ」(modality)という2つの成分に分ける考え方がある。中右¹⁶⁾に従って，命題を「話者の外側にある，客体化された世界の叙述」，モダリティを「命題あるいは相手に対する話者の，発話時という瞬間的現在における心的態度」と定義した場合，本稿の要求表現において，命題とは要求する内容そのものであり，聞き手に対する敬意とか控えめな態度がモダリティということになる。この関係を図示するなら(06)のようになるであろう。

- | | |
|------|---|
| (06) | <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">要求する内容^P</div> <div>要求のモダリティ^M</div> </div> |
|------|---|

上でみた通り，一口に要求表現といっても，丁寧度の違いによって様々な段

16) 中右実「モダリティと命題」『英語と日本語と——林栄一教授還暦記念論文集』くろしお出版，1979年，223～250頁参照。

階の表現があった。実はこれらの違いは「要求のモダリティ」の違いによって説明することができる。

例えば中国語の命令表現は、命題に何の加工も加えず、そのまま聞き手にぶつけるだけでよかった。それが命令表現として働くのは、表層構造上はゼロ型式ながらも命令のモダリティが働くからである。そして命令のモダリティとは具体的に言うなら、聞き手に対する強い言い切りの語調ということになろう。

これに対して依頼、勧め、誘いかけの場合は、要求のモダリティが表層構造上に現れることになる。例えば先の(29)(41)(64)(75)を命題とモダリティ成分に分けるなら、下図(107)~(110)のようになる。

(107)=(29)

你把火柴遞給我	師傅，您
---------	------

(108)=(41)

(你)下車	請，吧
-------	-----

(109)=(64)

你帶我走	秦大夫，能不能？
------	----------

(110)=(75)

我們去吃個便飯	好不好？
---------	------

そして各モダリティ成分が、表層構造上ではそれぞれのあるべき位置におさまり、(29)(41)(64)(75)という文となって現れるのである。

ただ、ここで問題となる手段が2つある。一つは依頼内容の軽減化である。(36)“一下”(37)“一趟”(38)動詞の重ね型型式は依頼内容の軽減化に与かるものであったが、木村が述べる通り、いずれも「[コト](=命題、筆者注)のウチ側の成分」¹⁷⁾であって、モダリティ成分ではない。ただ、聞き手のことを配慮して依頼内容を軽減化するということは、正しくモダリティの現れに他ならない。そこでこれらについては次のような図式を考えればいいであろう。

17) 詳しくは、木村、前掲論文、64頁参照。

(11)=(36)

你轉告他	輕減化	請
------	-----	---

(112)=(37)

你給我跑	輕減化	吧
------	-----	---

(113)=(38)

你給我找	輕減化
------	-----

まず、それぞれの要求する内容を軽減化というモダリティが包むのであるが、その軽減化が表層構造では、(36)“一下”(37)“一趟”(38)動詞の重ね型型式という命題内成分となって現れることになる。そして、(36)(37)の場合は更に“請”“吧”というモダリティが回りを包んでいるのである。

問題となるもう一つの手段は、否定疑問文型式による要求である。

(114) 今天他不来。(今日彼は来ない)

(115) 我不是日本人。(私は日本人ではない)

(114)(115)は訳文からもわかる通り、これが命題そのものである。つまり、否定の副詞“不”を含む否定命題なのである。このように否定とは本来、命題内成分に属するものであり、間接的に命令表現として理解されたとした“還不～”型式の場合も、(91)“你還不跑”(92)“你還不上樓去睡”全体が一つの否定命題であり、その命題の真偽を疑問のモダリティによって確かめているのであるが、それがたまたま前後の文脈によって反語と理解され、間接的に命令表現となったのである。それに対して“還不快～”型式の場合は、動作主が二人称のとき“還不快”が命令表現専用型式として振る舞うということからして、(81)“你謝謝”(82)“你去”のみが命題であり、“還不快”は否定を含む複合モダリティ表現として働いていると考えるのが適当であろう¹⁸⁾。

勧め、誘いかけの場合も同様である。直接的な勧め、誘いかけ表現であるとした(10)(102)(104)(105)においては、否定の副詞“不”はもはや命題内成分ではなく、

18) 否定を含む複合モダリティ表現という考え方については、中右実「質疑応答の発想と論理」『日本語学』1984年4月号、明治書院、13～20頁参照。

文末の“？”（つまり疑問のイントネーション）と呼応してモダリティ表現を構成しているのである。

5. おわりに

以上、要求表現全般にわたって、命令、依頼等に関わる話し手の要求の態度が言語上にどのように反映されるかを具体的に考え、同時に中国語の要求表現とはそもそもどういうものであるのかということについても筆者なりの考えを述べたつもりである。ただ、本稿の目的の一つであった、どういう表現が丁寧であるかという点については、先にも述べた通り、発話時の語調等様々な要因が関わってくるため、詳細に比べるところまでいかなかった。

また、随時日本語との比較を行ったものの、それは、たまたま対応する表現だけを取り出したにすぎず、実際には対応しない部分のほうがはるかに多いのである。例えば、否定疑問文型式による勧め、誘いかけ表現にしても、日本語ではごく普通に用いられるのに対して、中国語の場合は、小説、シナリオ等から例を集めるのに苦勞するほど少なく、肯定（疑問文）型式のほうがはるかに優勢である。おそらく、否定疑問文型式による要求表現のあり方そのものが異なるのであろうが、本稿ではそこまで論じることができなかった。

更には、同じく行為の要求であっても、日本語、中国語ともに本稿でいう要求表現が用いられるとは限らない。例えば、木村の指摘するように、水を要求する際、日本語では「お水ください」のように依頼表現が用いられたとしても、中国語では普通、“我要一杯涼開水”（私は水が一杯ほしい）のように欲求意志表現が用いられるというズレもある¹⁹⁾。このようなズレもまた、日中両国語の要求表現のあり方を考える上で非常に興味深い問題ではあるが、今後の課題としたい。

(1988. 8. 28)

19) 木村、前掲論文、64～65頁参照。

「例文引用作品」〈 〉内略称

〈雷〉：『雷雨』，曹禺著，中国戲劇出版社，1980。

〈広〉：『广播劇選集（三）』，中国广播劇研究会・中央人民广播电台文藝部編，広播出版社，1984。

〈劇〉：『劇本』，『劇本』月刊社編，中国戲劇出版社，月刊誌。

〈老〉：『老舍劇作全集（一）』，胡絮青・王行之編，中国戲劇出版社，1982。

〈蘇〉：『蘇叔陽劇本選』，蘇叔陽著，北京出版社，1983。

付記。本稿をなすに当たり，本学の沼野治郎先生には，多くの有益なご教示をいただいた。ここに特に記して感謝申し上げます。